

“いのち”と“暮らし”を守るために

市民の皆さんの生命と暮らしを守り、北勢地域の高度医療、救急医療を担う急性期病院としての役割を持つ市立四日市病院。その市立病院の取り組みなどを紹介します。



市立病院ってどんな病院？

市立病院は、かかりつけ医や地域の医療機関からの紹介を受けるなど、急性期の治療が必要になった患者の皆さんを診療しています。急性期を脱した患者の皆さんは、リハビリを行う回復期病院や地域の医療機関などで療養を行います。

このように、地域の医療機関と連携することにより、急性期病院としての役割が発揮されています。

そして、市立病院は急性期病院としての診療実績から、現在“大学病院本院に準ずる機能を有する病院”の一つとして、厚生労働省の指定を受けています。これは、全国でもわずか140病院しか指定されていません。

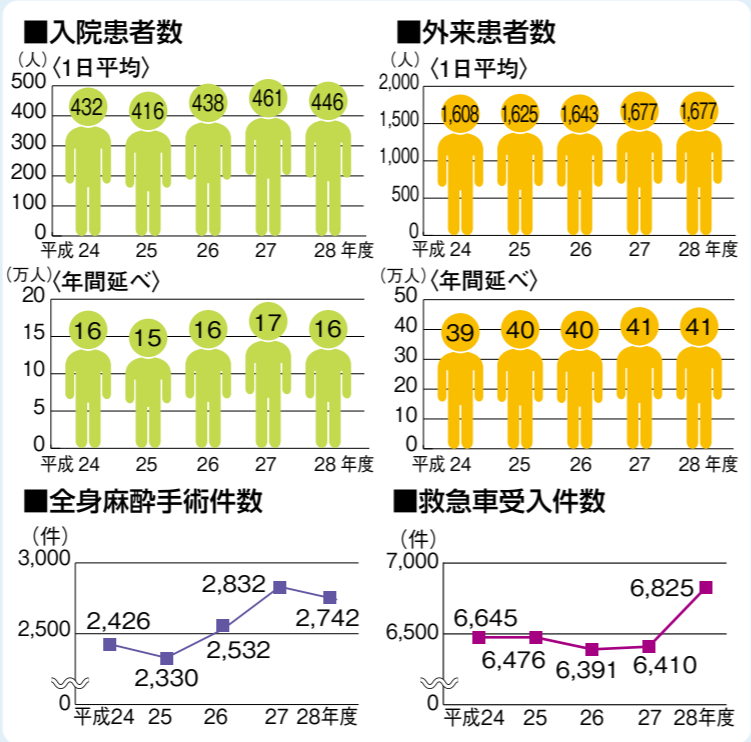
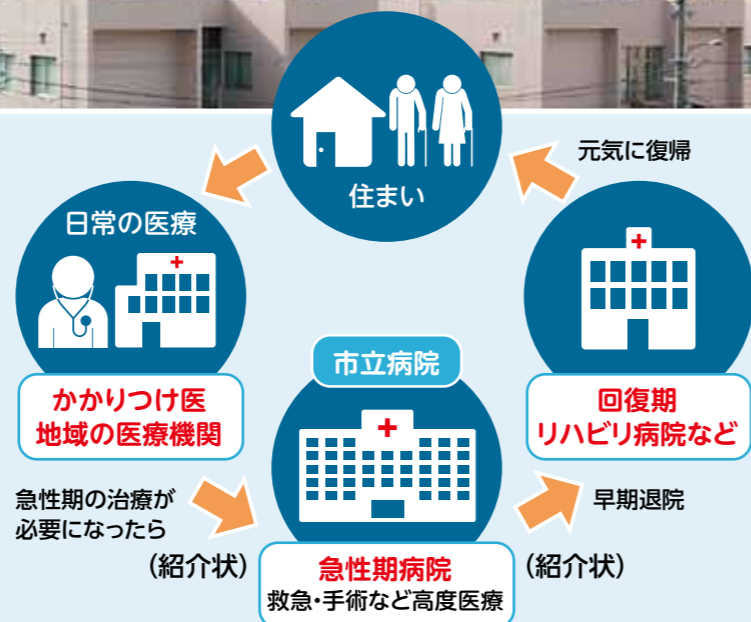
〈市立病院の主な機能〉

- 災害拠点病院 ●救命救急センター
- 地域医療支援病院 ●総合周産期母子医療センター
- がん診療連携推進病院

何人の患者を診ているの？

年間の延べ患者数は、入院で15~17万人、外来で39~41万人です。また、1日平均では、入院で400人、外来で1,600人を超えています。

市立病院は急性期病院であることから、重篤な患者への全身麻酔を伴う手術も多く、また、年間6,000件を超える救急車搬送による救急患者を受け入れています。



医療機能の向上と療養環境改善への取り組み

これまでの取り組み

平成25年度に新病棟の増築整備を完了して、医療機能の向上や、6人床から4人床にするなど入院患者の療養環境の改善に取り組んできました。また、高度ながん治療を行うため、高精度放射線治療棟を整備して新たに治療装置を導入し、平成29年4月から供用を開始しています。この整備に合わせて高精度放射線治療棟の2階に救急病棟を移転し、救命救急センター(ER)と救急病棟を同じフロアに整備したため、より迅速な診療が可能となりました。さらに、これまでの救急病棟あとに人工透析室を移転整備しました。



これからの取り組み

平成30年度の完成に向けて、内視鏡やX線による検査・治療を行うための内視鏡・X線テレビ室の移転拡充と、点滴による抗がん剤治療を行うための化学療法室の拡張整備を実施していきます。これからも、急性期病院としての医療機能向上に向け、取り組みを進めます。



患者満足度の向上への取り組み

市立病院では、患者の皆さんとご家族など来院者の満足度の向上に向けて、また、安心して病院の施設を利用いただけるよう、さまざまな取り組みを実施しています。

案内充実

病棟コンサルジュ導入 (平成27年11月)
病棟内で入院に関する説明や案内を行っています。



利便性向上

院外南駐車場舗装整備
その他の院外駐車場も順次舗装整備を進めており、平成29年度末に全て完了の予定です。



地震対策

窓ガラス飛散防止フィルム貼工事 (平成29年3月完了)



災害対策

傷病者受け入れを想定した訓練の実施

